大阪・中之島公園で開催

ベルギービールウィークエンド

【大阪】ベルギービールウィークエンド実行委員会は、「ベルギービールウィークエンド2023大阪」を5月24～28日、中之島公園の中央公会堂で5日間開催した。

11回目を迎えた同イベントは、会場を中之島に移し（昨年は大阪城公園で開催）、13タイプ54種類のベルギービールを提供した。

ベルギービールウィークエンド（BBW）は、毎年9月の第一週末に、ベルギーの首都ブリュッセルで開催され、世界遺産に指定された美しいグランプラス広場が世界中のビールファンでにぎわう。ベルギーが世界最大のビール大国と呼ばれる理由は、人口1000万人が暮らす小さな国であるに、およそ380カ所のビール醸造所があり、1500種以上のビールが造られているからである。

日本でも2019年9月10日に六本木ヒルズで初開催を果たし、今年で14年目となりこれまで140万人を超える来場者を迎え、日本有数の屋外イベントに成長した。

2023年は、全国6会場（豊洲、名古屋、横浜、大阪、六本木、新宿）で開催している。

会場は、中央公会堂前にステージを設け、ステージ前にテントエリアとオープンエリアの席を多数用意し、来場客は受付で受け取ったオリジナルマイグラスを片手に、ビール提供ブースにてお気に入りの1杯を探した。ビールをおかわりする際には、会場内に設置されたベルギー製のグラスリンサー（洗浄機）でグラスをそそぎ、おかわりを提供してもらう。

あわせてフードブースも多数出展し、ブーレットやカルボナードをはじめとするベルギー伝統の料理のほか、ベルギービールに合うギョウザなど幅広いフードメニューを揃えた。

またステージイベントでは、4年ぶりにベルギーからアーティストら来日し、連日熱いライブで同イベントを盛り上げた。

5月24日にはオープニングセレモニーを開催し、ドゥ・ビルデルリング駐日ベルギー王国大使は、「このような素晴らしい場所でベルギービールのイベントが開催でき、大阪市に感謝したい。今年は4年ぶりにベルギーからアーティストを招き、ライブも行うので、ベルギービールとともに大いに盛り上がってほしい。もうすぐ開催される大阪万博でも、ベルギーのパビリオンのオープンを予定している」と来場客に呼びかけた。

会場はスタジアム

倉松酒販『全国蔵めぐり in 北九州』

試飲や対話を通じ深く響かせた

〝酒販店限定ビジネスタイム〟も設けた㊦

【福岡】JR小倉駅から徒歩7分、サッカーJリーグの試合などが行われるミクニワールドスタジアム北九州（北九州市小倉北区）で5月28日、酒類卸の倉松酒販（北九州市若松区、倉松聰社長）が企画した日本酒の有料試飲イベント『全国蔵めぐり in 北九州』があり500人超が来場参加した。初の試みだったが、会場となったスタジアムの通路は長くて広く、今回イベントにとって格好のスペース。日本酒の魅力を、食欲に体感しようとする参加者と、試飲や対話を通じ深く響かせようとする蔵元、双方交流の熱で充満した。卸売業が造り手と飲み手を繋げる力も見せつけた。個々人の感性で愉しむ日本酒飲酒の普及と浸透も実感させ、一層ののびしろを感じさせるものになった。

主催は同スタジアム運営管理の㈱ウインドシップ北九州。倉松酒販は企画協力で実質、開催の全般を担った。

会場はスタジアム「にぎわいプロムナード」（入口広場横）。

出展は全国の日本酒蔵元20社、出品は日本酒約80種に上った。①如空・銀嶺月山②菊の司③阿櫻④笹正宗⑤奥の松⑥甲子⑦北雪⑧手取川⑨御湖鶴⑩半蔵⑪萩乃露⑫春鹿⑬月山⑭賀茂鶴⑮五橋⑯天心⑰白糸⑱肥前蔵心⑲西の関⑳八鹿。

2部制＝①11～13時②14～16時で、完全入替・各250人。前売チケット制（参加費2000円）とした。

第1部の前、10時～10時50分を、優先入場で商談も可能な〝酒販店限定ビジネスタイム〟とした。

会場はスタンド式だが一部、席利用も可。また同日開催イベント「あつマルシェ」にキッチンカーが出店し、食と共に存分に試飲を楽しめるものとした。

最高の高揚感 日本酒の魅力発信、再起動

津軽・かみのやまのぶどう

サントリー 日本ワイン3種発売

サントリーは、日本ワインブランド「Suntory FROM FARM」から、テロワールシリーズとして「同・津軽 ソーヴィニヨン・ブラン2022」「同・かみのやま シャルドネ2022」「同・かみのやま カベルネ・ソーヴィニヨン2021」の3種を6月13日から全国で数量限定で発売する。

津軽地方は、ぶどうの生育期（4―8月）に雨が少なく収穫期（9月以降）は一気に冷涼になる気候、岩木山（いわきさん）の火山灰土壌が特長で、豊かな香りと酸味が魅力のぶどうを栽培することができる。上山市（かみのやまし）は、蔵王山の西麓に位置し、内陸性の気候で昼夜の寒暖差が大きく、さまざまな果実の名産地として知られる。ぶどうの収穫期は夜の気温が一気に冷え込むため、しっかりと色づき味わいが凝縮されたぶどうを栽培することができる。

今回は、地元の栽培家と共につくりあげたワイン用ぶどうを100％使用した、テロワールシリーズの新ヴィンテージを発売し、同ブランドのさらなるファン拡大を図る。

「同・津軽 ソーヴィニヨン・ブラン2022」は、りんごやグレープフルーツなどの柑橘類を思わせる、果実の甘やかさと心地よい酸味、口に含むと感じられるほのかな甘さと複雑さ、やわらかさが特長となる。

「同・かみのやま シャルドネ2022」は、上山市産シャルドネの特長である洋梨のような香り、やわらかな味わい、素直に感じられる果実感が特長で、口の中で広がるフレッシュな果実味と爽やかな酸味がバランス良く感じられる。

「同・かみのやま カベルネ・ソーヴィニヨン2021」は、よく熟したダークチェリーやカシスを思わせる豊かな香りに、樽由来のバニラのような香りが合わさった風味が特長で、カベルネ・ソーヴィニヨンの良さであるしなやかさや、きちんとした骨格が感じられ、上品で力強い味わいとなめらかで長い余韻を楽しむことができる。

▽アルコール分＝12％▽容量＝750㎖びん

木樽で熟成させたプレモル

〈白州原酒樽熟成〉限定発売

サントリーは、「ザ・プレミアム・モルツ マスタードリーム〈白州原酒樽熟成〉2023」を6月20日から数量限定で発売する。

同商品は、醸造家のこだわり・思いが込められた〝多重奏で、濃密〟な味わいのプレミアムビールとして、消費者から好評を博している。なかでも〈木樽熟成〉シリーズは、サントリーのシングルモルトウイスキーに使用した木樽で熟成させることで実現した熟成香と余韻が特長で、2020年から2022年にかけて抽選販売を実施し、多くの応募が集まった。

今回は、サントリーシングルモルトウイスキー「白州」に使用した木樽で熟成させた「ザ・プレミアム・モルツ マスタードリーム〈白州原酒樽熟成〉」を一部ECチャネルで数量限定発売する。

なお、「同・マスタードリーム〈山崎原酒樽熟成〉」も秋頃に数量限定で発売予定となっている。

同商品は、「ザ・プレミアム・モルツ マスタードリーム」の特長である〝多重奏で、濃密〟な味わいを実現する「ダイヤモンド麦芽使用」「トリプルデコクション製法」「銅炊き仕込」はそのままに、サントリーシングルモルトウイスキー「白州」の原酒に使用した樽で熟成させることにより、〝爽やかな熟成香と爽快な余韻〟を実現した。

▽アルコール分＝8・5％▽容量＝715㎖びん▽希望小売価格（税抜）＝6000円

爽やかでフルーティ

季節限定シーサイドエール

サントリーは、「ザ・プレミアム・モルツ〈ジャパニーズエール〉シーサイドエール」を6月27日から全国で夏季限定で発売する。

「ザ・プレミアム・モルツ〈ジャパニーズエール〉」シリーズは、「ザ・プレミアム・モルツ」ブランドこだわりの素材、同社独自の上面発酵酵母、醸造家の卓越した技術を掛け合わせることで実現した、日本人の嗜好に合う〝フルーティな味わいと爽やかな香り〟が特長となっている。今年2月にリニューアルした「同・香るエール」は、「磨きダイヤモンド麦芽」を一部使用することで、〝みずみずしい香り〟がより一層鮮やかに進化。2023年1―4月の販売数量は対前年120％と好調に推移している。

今回は夏限定の〈ジャパニーズエール〉として、希少品種サファイアホップを使用した同商品を夏季限定発売する。

中味は、希少品種サファイアホップを使用し、上面発酵酵母で発酵させることで、夏の開放的な気分にぴったりの爽やかでフルーティな味わいに仕上げた。

パッケージは、ホワイトとマリンブルーの組み合わせで、夏の浜辺を表現した。また、「ザ・プレミアム・モルツ〈ジャパニーズエール〉香るエール」のデザインを踏襲し、「JAPANESE ALE」の文言をロゴに採用することで、〝ジャパニーズエール〟シリーズの限定品であることを訴求している。

また、「ザ・プレミアム・モルツ〈ジャパニーズエール〉香るエール」「同シーサイドエール」350㎖缶を各3本詰め合わせた「同・2種飲み比べパック」を、6月27日から全国で数量限定発売する。

▽アルコール分＝6％▽容量＝350㎖缶、500㎖缶

旬の果実のおいしさ

秋限定「―196℃」3種

サントリーは、「―196℃」ブランドのさらなるファン拡大を図る。

〈秋梨〉は栃木県産の「幸水」を使用した。和梨のみずみずしい味わいを楽しむことができる。

〈秋りんご〉は、青森県産の「サンつがる」を使用。りんごの華やかな香りと甘酸っぱい味わいが特長となっている。〈秋ぶどう〉は山梨県産の「巨峰」を使用した。コクのある甘みとやさしい酸味が感じられる中味に仕上げた。

パッケージは、表面には十五夜の満月にモミジやイチョウの葉のイラストをあしらい、秋の情緒を感じられるデザインに仕上げた。また、月に照らされたみずみずしい果実を大きく描き、旬の果実のおいしさを訴求している。裏面には、満月が浮かぶ情景と果実のイラストを描くことで、商品の特長を表現した。

▽アルコール分＝4％▽容量＝350㎖缶▽希望小売価格（税抜）＝148円

限定ストロングゼロ〈マンゴーダブル〉

サントリーは、「―196℃ストロングゼロ〈マンゴーダブル〉」を7月18日から全国で期間限定発売する。

同商品は、同社独自の〝―196℃製法〟によるマンゴー浸漬酒にマンゴー果汁を加えた。濃厚でしっかりとした果実感と、アルコール度数8％の飲みごたえが特長となっている。

パッケージは、みずみずしい果実のイラストで中味の特長をわかりやすく表現した。また、南国を思わせるイラストや「限定出荷」のアイコンをあしらうことで、夏にしか味わえない特別感を訴求している。

▽アルコール分＝8％▽容量＝350㎖缶、500㎖缶▽希望小売価格（税抜）＝148円、200円

70年前「もっと大変」

九州南部卸酒販組合 第70回通常総会開催 今秋へ向け課題山積

【熊本】九州南部卸酒販組合（池田正三郎理事長、事務局・熊本市）が5月23日、熊本市のザ・ニューホテル熊本で第70回通常総会を開催し、令和5年度予算案（5年4月～6年3月、収支2973万5344円）などの上程議案を可決承認したほか、任期満了に伴う役員改選を行い、理事長に池田氏を再選した。併せ、全国卸売酒販組合中央会・江國清志専務理事から情勢報告があった。

令和5年4月1日現在の組合員は、熊本国税局管内・南九州4県＝熊本・大分・宮崎・鹿児島＝33者63場。令和4年1～12月の組合員の酒類販売数量（大卸除く）は21万7510㎘で前年比105・4％。本格焼酎の主産地ならでは、全酒類販売数量に占める単式蒸留焼酎の構成比が高く、特異な地域性がある。4県計19・1％（▽熊本11・6％▽大分12・3％▽宮崎23・2％▽鹿児島25・1％）。

南九州4県の組合員が一堂に会した＝5月23日㊤、池田理事長

池田理事長は、平成17年3月「熊本県卸売酒販組合」理事長に就任。同年6月から「全国卸売酒販組合中央会南九州支部」支部長。南九州4県の卸組合が合併統合された平成29年4月から現組合の理事長を務めている。冒頭あいさつで組合設立70年の歴史を振り返った。「第70回節目の年。70年前は昭和28年で、まだ戦後復興の真っ最中。今もコロナ禍で大変な時代だが、組合がスタートした70年前はもっともっと大変な時代だったのではないかと拝察する。戦後の荒廃期から、アルコール飲料の卸売業はそれぞれの県の荷捌き所的な形で配給がなされていたと聞いている。それから民間の企業・個人での卸が始まり、組合もスタートした。これから30年後の100回総会までは景気のいい卸の業界になっていてほしいと期待している」。

〈以下本紙・鎌田毅が著した「酒販昭和史」より。▽昭和22年（1947）12月1日、酒類配給公団法公布▽昭和23年（1948）2月1日、酒類配給公団設立▽昭和24年（1949）7月1日、酒類配給公団廃止、指定卸業〈甲卸〉、非指定卸業〈乙卸〉出現▽昭和28年（1953）3月1日、酒税の保全及び酒類業組合等に関する法律を公布。これにより、それまでの任意団体を解散し、酒類毎の生販三層はそれぞれ新組合を設立した〉

令和4年度事業報告では「特に中小規模の酒類卸売業者においては、業務用販売の比重が高く、全体として売上金額が大きく減少し、かつ利益率が低い中で、長期にわたり厳しい経営状況になっている」と指摘。

市場問題に係わる各県地区会等、また九州北部卸酒販組合と連携し「南・北九州ビール市場問題協議会」などが開催されている。酒類需要がコロナ禍以前の水準には回復していないなか、公正取引の推進は最重要課題で「公正取引基準等を遵守しコストを的確に把握し適正にコストオンした価格設定に努める等、公正な取引の一層の推進及び定着を図る」と掲げた。令和5年度事業計画には引き続き「平成28年熊本地震及び令和2年7月豪雨災害からの復旧・復興」を盛った。

卸中央会・江國専務理事は「今年10月に向け色々な課題がある。令和2年10月とは取引環境も大きく異なっている」と注意喚起した。消費税インボイス制度の導入と、酒税税率改正が重なる。「エネルギー価格が上昇し、昨年は酒類の値上げがあり、改正に合わせた値上げも予定されている。さらに物流問題が厳しくなってくる。10月1日が日曜日だということもある」と話し、税率改正や手持品課税、2024年物流問題などについて言及。「酒税法の改正に伴う増減税相当額の適正な転嫁等について（国税庁酒税課通達）も示した。以下ある。「特に、価格改定に際しての取引条件の決定については、売り手と買い手の間であらかじめ十分な協議を行うことが重要である」。

熊本国税局は補助金（海外展開・酒蔵ツーリズム補助金、フロンティア補助金）やインボイス制度改正、手持品課税、e―Taxソフトによる酒類の販売数量等報告書作成マニュアル、キャッシュレス納付などについて説明した。

総会には以下臨席した。▽熊本国税局・岩田知子酒類監理官▽熊本西税務署＝城森和弘署長▽日本酒造組合中央会南九州支部・本田雅晴支部長▽日本蒸留酒酒造組合九州支部・池田政彦専務評議員▽ビールメーカー4社熊本支店等代表。

新役員　▽理事長＝池田正三郎（熊本、池田商店）▽副理事長＝宮崎浩二（熊本、宮崎商店）、高橋正明（大分、高橋正現商店）、山口博司（宮崎、新酒販）新任、追利幸（鹿児島、南九州酒販）